

～2022年度の京都府地域交響プロジェクトの助成金を活用して行った、支援者向き講座②～

【知っておきたい 赤ちゃんの体と心と脳の発達 8月20日～21日 講師：武田信子さん】

2022年 8/20日 10時～16時

第二弾

2022年 8/21日 10時～16時

宇治で 学ぼう・語ろう・つながろう

知っておきたい あかちゃんの体と心と脳の発達

人の成長発達の基盤となる胎児期から乳幼児期にかけて、体と心と脳はどう育っていくのでしょうか。その関係性とプロセスを学び、推測する力をつけて、赤ちゃんの発達を応援できる大人になりましょう。

場 所：宇治市広野町西裏100 平和堂1008AN店2階
対 象：赤ちゃんや子どもの育ち・子育て中の親の応援、サポート、支援に関わっている方（学生可）
参加費：10000円 両日参加のみ、会場にてお支払いください。
定 員：20名（先着順・要申込）
申 込：フォームからお申し込みください。

武田 信子（たけだ のぶこ）さん
一般社団法人ジェイス代表理事。1962年名古屋生まれ。世界40か国・地域の子どもたちと心と脳の関係を研究してきた臨床心理士。映画「子どもの戦い」からは保育園で子どもを育て、3歳と7歳の子どもと共にカナダ移住。カナダとオランダの大学客員教授時代に現地の子どもと関わった。28年の国際教育に関わり、大学を卒業後帰国して保育のハイパー講師も務める。竹内倫理士と竹内レオ、小倉直也と関わり、マリアン・ホーエーと共同でシンガポール、ビルマ、インドネシアにユニバーサルを学ぶ。主な著書に「やりすぎ教育ー商品化される子どもたち」(ポプラ新書)。有隣堂アワード「育つつながる子育て支援」(チャイルド本社) など、得とnoteで、子どもの発達について発信し続けている。

主催：子育ての文化研究所
【子育ての文化研究所】
〒611-0031 京都府宇治市広野町寺山45-5
info@kosodate-bunka.jp
代表 藤原のぞみ 事務局 山崎まゆみ
http://www.kosodate-bunka.jp/

令和4年度京都府地域交響プロジェクト交付金 申請中



武田信子さんは、すべての子どもがウェルビーイングに暮らせる社会を目指して、活動しておられ、現在は一般社団法人ジェイスの代表理事である。当団体の講座では何度も御登壇頂いており、2015年の講座では、赤ちゃんになりきって、赤ちゃんの視線ではどのようにみえるか、赤ちゃんの体の動きを真似てみるなど、思いがけない方法で、子育て支援者に足りない部分を気付かせて頂いた。それ以降、子ども・子育て支援や教育・心理・コミュニティワーク・人権・遊びに関する様々な学びを提供下さっている。今回は、「やりすぎ教育ー商品化される子どもたち」(ポプラ新書)で述べられている内容と、具体的な赤ちゃんの体、心、脳の発達を2日間、みっちり学ばせて頂く機会となった。身体と心のつながり、それが脳にどのように影響を及ぼすかを自分で考える力を身につけることを目標に講座は始まり、具体的にグループで赤ちゃんの発達を月齢別に表を作り上げる等のワークも行った。丁寧で分かりやすい2日間の講座内容は、参加者に、「この学びを通して自分は何が出来るのか、今後どうしたらいいのか？」を突き付けるものであった。参加者が持ち場に戻り、2日間の学びをゆっくり紐解き、次の一步を踏み出し、おそらく、人数分の現場が変わっただろうと思われる。そういう実践的な学びを頂ける機会であった。



【参加された方からの声】（全員からメッセージを頂きましたが、一部抜粋とします）

Q: 参加しての全体的な感想は？

A: 子どもの成長はすごい、と改めて思いました。そして、これだけ多くの人が、それを学びたいと思っていることもすごいと思いました。

A: 充実したとても濃い内容でした。心理学についての全般的な理論、知識をここまで整理して学んだことがなく、それぞれを子どもの育ちに関連して学べたことがとても興味深かったです。

A: 学校の授業では習わないようなことも学べて面白かったです。話し合う機会があり、普段接することがない方との交流は刺激になりました。子育て支援や子育てを実際にされているからわかること、考えることなど人によって見えるものは違うと改めて感じ勉強になりました。

Q: 心に特に残ったことは？

A: 母親が子どもに与える影響は改めてとても大きいと思いました。赤ちゃんとは普段触れ合う機会はありませんが、赤ちゃんは何もできないと思っていました。しかし、赤ちゃんは生まれた時から自分から生きようとする強い力があると知りました。よく考えたら言語を短期間で覚えることもとてもすごいことだと思いました。赤ちゃんが持っている力を十分に伸ばすために、できることをしたいと感じました。

A: 子どものイヤイヤ期は、自己主張期でもあり、親とのやりとりの中で、親が許す限界がわかり、子どもはここから先は許されないというラインを自分の中につくるためにあるととらえると、発達の過程として受け止めやすくなると思った。

おかれている状況の中で、自分にできることを考えアクションをおこしてほしいという言葉が残った。

A: (援助する場合は、気質=現在の子どもの状態を意識して、どう対応すると親子がお互いにとっていいか、折り合いのとれるバランスを見つけて声をかけよう)という子育て支援者としての心構えが心に特に残った。コンテナ症候群等、子どもたちの発達を妨げ問題となるような環境の悪化が進む中、あれはダメ！これもダメ！といったがちである。

けれど、実際子育て支援の場では「産まれた時から横抱きを嫌がり、寝かせても泣くので必然的に抱っこ紐で縦抱きをしている時間が長くなるけれど、そうしないと家事や育児がうまく進まない」というような悩みに直面する。その中では子どもたちを守ることが一番ではあるが、杓子定規な禁止ばかりでは、親の自信をなくさせたり、傷つかせたりしてしまうので、しっかりと話に耳を傾けて状況を知り、折り合いとバランスを考えて心に響く対応を心がけなければならないと改めて考えることができた。

Q: 現場で活かそうだなと思ったことは？

A: アタッチメント、安心感の輪

→普段から何気に保健指導で用いるが、相手の状況を踏まえ、もっと意識的に、わかる言葉で伝えたい。コンテナベビー→知らずに、そうなってることが、恐い。安全と便利、発達の保証のバランスがとれるよう保護者に伝えたい。研究所発行の資料、たくさん頂き、ありがとうございました。かるたは、担当地区の子育てサロンで使ってみたい。

A: 微妙なサインから相手の感情を読み取り、言語化または共鳴すること。スタッフにも伝えつつ、支援の場でしっかり活かしたい。遊びとはどう言うことか、この深い意味が伝わるように。

コンテナ症候群の様々な現象を、さりげなく納得できる形で、養育者や周りの大人に伝えていきたいと思えます。

A: 何か問題と感じた時に、自分がなぜそこにひっかかるのか？自分を振る帰ることができるかどうか。

自分がやっていることの限界を知っておくこと。

五感が働く経験がなく育てられると、感覚統合の発達が遅れてしまうこと、遊びによって重要な脳の機能が促進されることといった意味がしっかり理解したうえで、子育てママにその方向にむかうような言葉かけをしたい。

A: 目の前の赤ちゃんの状況を実況中継することで、お母さんがああ、そうかこの行動の意味はこうゆうことだったんだということを説明したり赤ちゃんという人(人間)を知ってもらえる手がかりを、この講座で再認識できたので分かりやすく、お母さんの気持ちも大切にしながら赤ちゃんの育児を一緒に考えサポートできるようになりたいと強く思うようになりました。

A: 私は、子育て広場(未就学)、1歳までのお子さんと親御さんとの関わりが多いところで働かせていただいています。

先生が仰るマルチリトメントな場面に遭遇することもあります。相手を否定せずその奥にある状況を理解したり、一緒に考えてられる方法は無いのか、どのように問題提起したら傷つかないかを工夫する努力をしたいと思います。

A: 心理学的な内容や学びが深く、現場にて、学んだことを思い出すことがある。知っている、知らないとは大違い。利用者へ適切なアドバイスが出来るかは別としても、知っている自分が色んな面で以前と違う関わり方をして行けると思った。

言葉かけや視線は、以前から大切にしていた。

赤ちゃんの目を見て、『お顔に触れるよ。』『抱っこしていい?』と語りかける大切さについては、これからも伝えていきたい。

A: ひろばの利用者さんに、赤ちゃんに触れることや話しかけることの大切さを丁寧に伝えていきます。また、赤ちゃんが自由に動き回れる時間と空間を作ることが、赤ちゃんの脳と身体の発達に必要なだということを伝えていきます。

Q: 感想

A: 今の溢れる情報の中で、迷い、コロナ下で更に孤独に過ごす親子を一人でも救いたい想いです。そのためにも、地域の方の理解と行政の支えは必ず必要で、場所の確保や維持管理にチームで動いている最中です。自然の中で過ごす親子を見ていると、本当に目がキラキラとしていて五感をフルに使い、様々な刺激に感情が溢れ出したり、火を焚くことで話が深められたり、話すことが苦手な人も出す事ができたり、扱いを親子で学んだり、私も含め、育ち合いの真っ最中です。感性を育てることに武田さんが自然の中でという所に今注目されているという事で、すごく共感して聞いていました。赤ちゃんってまだまだ未知な世界だと思っていますし、目を合わせていると大人の心の奥を見ていて全部知られているなと降参!となることもあって。面白いと感じていますしこれからも知っていきたいと思います。

A: とても充実した2日間でした。心理学はわたしにとって、とても関心のある分野であり、日頃から大学で学び直したいと思っていますくらいです。武田さんの講座は、大学の授業のようで有難い気持ちになりました。内容が分かりやすく興味深いものだったので、自分の中にどんどん入って来ました。用意して下さった資料も、読み返してみても、理解を深めることができます。大切に保管しています。ポロポロになるまで、読み返してみようと思います。午後は眠くなるタイプのわたしが、今回は一度も眠くならないくらい楽しい講座でした。武田さんの幼少期のご自身の話をされている時に、涙ぐまれたことも印象的でした。深いお話を聞かせていただき、ありがとうございました。